

潜入!

キラリかがやく!

地理のお仕事図鑑

地理の楽しさを伝えたい! そんな思いのこもった新コーナー!

旅行ガイドブックの編集

今年のゴールデンウィークももうすぐそこ。みなさん、予定は決まりましたか?本屋さんに行けばたくさんの旅行ガイドブックが並び、見ているだけでもワクワクしますよね。

今回のキラリかがやくお仕事人は、旅行ガイドブックや道路地図でおなじみの昭文社で、旅行ガイドブックの編集にたずさわる武者和実さん。武者さんは、大学で地理学を専攻。地理のおもしろさやお仕事に地理がどんなふう^{むしかずみ}に生かされているのかについて、たっぷりとお話をうかがいました。

◆ 地理学科に進んだ理由はー

小さいころから地図を見るのが大好きだったんです。中学1年生のとき、たまたま見かけたカナダの旅行パンフレットでロッキー山脈のルーズ湖を見て、絶対にここに行きたい!と思って、旅行パンフレットを見ることにめざめ、それからはもう地図・地理好きにさらに拍車がかかっていきました。

地理は、色をぬったり、図を読解したりする作業がありますよね。もともとぬり絵がすごく好きで、「小麦地帯をぬってみよう」とか、そういう作業が好きだったんです。

子どものころからやっていた書道での大学推薦も紹介されたんですが、地理学科に行けば地図を見て勉強できるのかな、とか、世界のことをいろいろ教えてもらえるのかなと思ひ、地理学科に進みました。

大学では萩焼の窯元の分布図や、金沢の街並みの図などをつくったのが思い出です。卒業論文は『伊香保温泉の地理学的研究』で伊香保温泉の歴史や、どこからお客さんが来ているかということから、温泉まんじゅうの分析とかまでやりました。

◆ 昭文社に入社した理由はー

地元で社会科の先生になりたくて教員採用試験を受けたのですが、落ちてしまったんです。昭文社はガイドブックもいろいろ出していたし、ここに入れば一生地図を見ていられると思ひ、ダメもとで受けてみたんです。そうしたらなんと合格。こうして地図や旅行ガイドブックの編集という道を歩むことになったんです。

◆ 地理は旅行ガイドブック編集というお仕事でどのように生かされていますかー

もちろん、地名を覚えたりグラフを読み取ったりしたことは、通常の業務でも役にたっています。地中海性気候とか熱帯モンスーン気候とか、この時期には雨降らないんだ、この時期に旅行に行くと雨季だとかもある程度わかりますね。こういったことは、ガイドブックの旅のアドバイスページなどで表示しています。

また、地図をつくるときに、これはどのくらいの縮尺でどの範囲の図取りがベストかということ、使う人の立場を考えてつくることができていると思ひます。例えば、ここではこっちの端からそっ

ちの端まで人が移動するはずだから、もうちょっと縮尺を下げた範囲に地図を広げようとか。地図にのせる情報の精査も重要で、地図がぐしゃぐしゃにならないよう、見やすいように目印の取捨選択をします。交差点ひとつをとっても、四つの角のすべての目標地物を記しては、地図が見づらくなってしまいます。どの注記情報を選ぶかは、地図編集者の知識と経験が大事なのです。例えば、機械的に公共施設を優先的に記しましょうと決めごとをつくったとしても、公民館や幼稚園では目印にならないことがあります。逆に一般商店と思ひても、実はその土地で誰しもが知っている有名なスーパーの支店だったら、大きな目印になりえるのでプロットするべきです。このように、いかに読者の方々が使いやすいように選ぶのが、地理の力だと思ひています。

◆ 地理をやっているとよかったことはー

それはもう誰とでも会話が弾むことです。私は百発百中、地元ネタを話すんです。相手の出身地のネタですね。相手が福岡出身の方であれば、「私、福岡行ったことありま〜す」とか、「太宰府行きました〜」とかって言うと、相手はすごく喜んでくれますね。地理を勉強していると初対面の人に対しても話のきっかけやネタがあふれ出るんですね。出身地の話をすると、みんな喜ぶますね。

◆ ズバリ!地理のおもしろさはー

自分がちっぽけだと知ることができる。世界には、ほんとうにいろいろな暮らしをしている人々があります。水の上に家を建てて暮らしている人、富士山よりも高い標高で暮らしている人など、日本にいただけでは想像できないような世界が広がっています。世界はとてつもなく広くて、そういうものを知ると、もういじめだなんだって言ってる場合ではない! ゲームとかしている場合ではない!日本は島国だから、和を大切にするっていうのも大事なんですけども、一歩殻を破って世界に出たら、そこで生きていけるような新しい発見があるので、地理はそのきっかけになってくれればいいなと思ひますね。自分の知らない地域を知ることは、相手の立場になって考え、相手を思いやることのできる基本になるものであるとも、私は思っています。また、地理はすべての学問に通ずるものだと思いますね。マーケティングや地域開発などにも地理学的考えは必要なのだと思います。

◆ 高校生へのメッセージ

好奇心をもつこと、いやなことや困難なことがあっても乗り越える力を身につけてもらいたいと思ひます。受験とかもそうですけど。地図が読めれば、1人でどこへでも行けます。いろいろなものを見て、発見して、比較して、その地域や事象の特長を言いあてられるようになったら楽しいですね。まずは自分の住んでいる場所のご自慢を言えるようになってほしいです。

キラリかがやくお仕事人

株式会社 昭文社 制作本部 出版制作部 編集一課
武者 和美 さん

1994年、文学部地理学科を卒業後、昭文社に入社。誰もが一度は見たことがあるであろう旅行ガイドブック『まっぷる』の編集を手がける。趣味は散歩、ロケ地めぐり、実地地図調査、旅行!! 「とにかく旅行大好き!! 現地を見なければ! という思いにかられ、車に寝袋を積み込み1週間は帰ってきません(笑)。その街の雰囲気、道の混雑、旅行者の動向、流行のきざし...何でも自分の目で見ないと気がすまないんです。」



1日のスケジュール

- 10時 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺
- 10時 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺
- 12時~13時
- 13時~15時
- 15時~16時
- 16時20分~
- 20時~21時頃

「会社に社員食堂があるので、そこでランチすることが多いです。」

- ※1：取材や編集を請け負う会社のこと。
- ※2：出版物に更新事項や誤りがあった場合に、修正や記録のためにおこす書類のこと。また、関連部署への諸連絡書類。

「締切日前はもっと忙しくなることもあります。」

旅行ガイドブックができるまで

①編集会議で内容構成や編集方針を決める

編集会議で、特集や頁数、どんな付録をつけるのかを決めていくという。「その本のウリを何にするかがポイントです。やはりものには食いつく! が鉄則。あくまでも旅行者目線の本になるよう、心がけています。」と武者さんは語る。

②現地取材・撮影

制作期間はおよそ半年だが、発売時期から半年前がその土地のベストな取材シーズンとは限らないので、すばやく動くベストな取材シーズンに取材・撮影しているという。1月に発刊した『まっぷる伊豆』では、満開の河津桜を撮影するために前年の2月に取材をしているんだとか。

③本文や地図を作成

取材成果にもとづいて編集プロダクションとラフデザインを考えていく。

④レイアウトデザイン

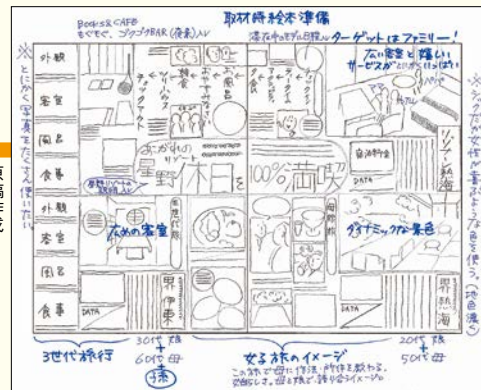
デザイナーと相談しながら本文や写真、地図、イラストなどを配置していく。「明快な文章で、めだつフォントや明るい色を使い、元気いっぱいの誌面になるよう心がけています」と武者さん。

⑤校正

できあがってきた誌面に、表記や表現に間違いがないか、読者に対してわかりやすくなっているかをチェックし、修正していく。写真の色もチェックし、暗かったら補正をかけて被写体が映えるよう調整していく。



編集会議



原稿作成

「取材先に対しても記事が間違っていないか確認をしていただきます。返事をいただいたものを丸写しせず、編集的な精査をします。電車やバスの本数や、所要時間、経路は変わることがよくあるので、しっかりと確認をすることが必要です。新商品をのせてほしいと言われることもあるけど、そこはせっかくの旅行ですから、定番のもの、名物を入れるようにしていますね。」と武者さん。

⑥必要なデータをそろえて印刷所へ

校正・修正が終わったら印刷所に誌面データを渡す。最終チェックを行ったうえで印刷所に戻し印刷にかかる。

印刷にかかってから書店に並ぶまで半月くらいの日数がかかる。ここまでくるのに、編集プロダクション、ライター、カメラマン、校正者、地図制作会社、DTP*3会社など多数の人々がかかわっている。

*3：誌面の文字修正などをし、印刷データの作成をコンピュータで割り付けすること。



校正



実際の誌面

お仕事ココが大変!

本を同時に何冊も手がけるので、そのときに自分のせいではかのスタッフに迷惑をかけてしまったときや、仕事が複雑化して締切に追われているときに関連部署を待たせるときがいちばんつらいですね。ひたすら謝ります!

お仕事ココがうれしい!

やはり自分が手がけたガイドブックを買っている方・使っている方を見たときはほんとうにうれしいです。かげよって握手したくなります(笑)。自分が推していたお店や商品がどんどん他のメディアで紹介されていくときもうれしい。また、個人ではめったに行けないパタゴニアの氷河に取材で行けたときは感無量でした。

武者さんの最新版『まっぷる伊豆』のココがコダワリ!

ココ! 『まっぷる伊豆』は1月19日に発売されたのですが、2月11日開通の伊豆縦貫道がバッチリ掲載されています! しかも、地図に混雑する道路やすばらしい眺望が見られるところを書きこんでいます。伊豆は道路が混みますから、こういった情報が読者の方々のお役にたつことができたらうれしいですね。



ココ

ココ! ガイドブックにはテーマごとに展開するものと地域別に展開するものなどさまざまな構成がありますが、新しい『まっぷる伊豆』では地域別に展開しています!! 利用者が行きたいところ、興味があるエリアを深く詳しく紹介することができました。話題の“ワサビ丼”も掲載しています。



★取材を終えて

■武者さんのバイタリティと飽くなき追っ心に感動しました。GWの予定は『まっぷる』で立てたいと思います★

■地理は、地域を知り、人を知り、世界を知ることができる。他者への思いやりをもつことができる、すばらしいものだと思えました。これからもそんな地理のおもしろさや楽しさを伝えるために、帝国書院もがんばります!